



「Winter outfit」

Contents

年頭所感	2	モバイルMRIの運用について	8
新任のごあいさつ	4	嬉野医療センター看護学生が考えた 特産品レシピ	9
第106回日本消化器病学会九州支部市民公開講座参加報告 ..	5	かんちゃんの成長は患者の笑顔につながる?	10
医師臨床研修制度におけるマッチングについて	6	広報誌の写真を公募しました!	10
令和3年度 院内災害訓練を実施して	7		

基本理念

「命と心をつなぐ医療」

「命と心をつなぐ医療」の実践には、患者の身体的苦痛を取り除くだけでなく、精神的苦痛も理解し和らげる努力が重要である。

また、患者や家族と良好な信頼関係を構築し、安心して治療を受けられる環境づくりが大切である。

年頭所感

院長 力武 一久



新年あけましておめでとうございます。早いもので院長となり、8か月が経過しました。この間何をしてきたかと振り返ると、手術への未練を感じながらのコロナ対応と雑務しか思い出せません。就任翌日の4月2日に今年度1例目の新型コロナ患者が入院されました。それからは、第4波、第5波と感染者は増加する一方で、12月までに約230名の感染者を受け入れて加療しました。1日最大32名の日もあり、生後1か月から90歳代まで、様々な世代の方が療養され、特に基礎疾患を有する方の療養では、病棟看護師も本当に大変だったと思います。10月には、コロナ患者は収束に向かいましたが、次なる流行に備えた準備が急務となりました。佐賀県からも透析患者のコロナ対応病床確保を依頼されたこともあり、昨年12月に増設工事が完了しました。これにより当院での対応範囲が広まったと感じています(写真参照)。

病院運営については、まずは河部前院長をはじめとする諸先輩方が築いてこられた伝統を守ることから始めました。ただ、医療の本質は患者中心であり、不必要な業務は極力減らして現場主義を徹底することを目指しました。会議は原則30分以内とし、また、デジタル化を少しずつ始めることにして、一部の会議のペーパーレス化、業績集は製本を中止しホームページ公開へと変更しました。まだまだ事半ばですが、すべての職種の業務軽減に努力していきたいと考えています。

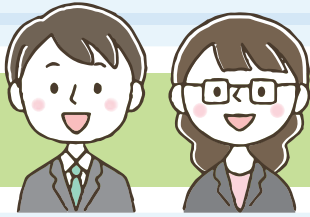


さて、今年の目標は、医療の質改善、デジタル化の推進、働き方改革をあげたいと思います。コロナ禍の面会制限などで、説明不足やコミュニケーション不足が患者と医療スタッフの間に意識のずれを生じる事もありました。密な連絡を取れるよう努力し、このままコロナ感染が収束傾向であれば、短時間・少人数の面会から再開を目指す所存です。デジタル化の流れは止めることはできないでしょう。当院には50以上の委員会が存在しています。オンライン会議は、コロナ禍で逆に確立されたものとなりましたので、逆にこれを利用したり、チャット方式の会議を行うなど、メンバーが勤務調整をしないのできる委員会などを計画していきたいと考えています。また、医師の働き方改革は、5年間の猶予期間がありましたが、2024年4月からは本格的な運用となりそうです。長時間労働を避けるため、業務の効率化やタスクシフティングなどを行って、医師の健康管理も行いながら、救急医療体制との両立を目指していきたいと考えます。

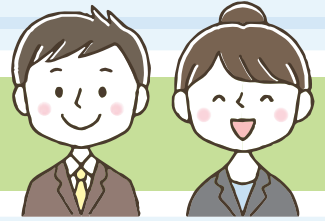
まだまだ不慣れなことが多いと思いますが、嬉野医療センターの発展に貢献していきたいと思しますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

コロナ患者用の透析室が完成し、
1月より運用を開始しました





新任のごあいさつ



本石 翔

産婦人科医師
出身大学 九州大学
平成 26 年卒

専門分野 産婦人科一般

丁寧な診療を心がけています。わからないこと、不安なことなどありましたらご相談ください。



嘉村 朋顕

循環器内科レジデント
出身大学 佐賀大学
平成 31 年卒

専門分野 循環器内科

嬉野に貢献できるように、精一杯頑張らせていただきます。



高村 幸

臨床研修医
出身大学 久留米大学
令和 2 年卒

長崎大学から参りました。しっかりと研修させていただき、地域の医療へ貢献できるよう頑張ります。



松尾 聖哉

臨床研修医
出身大学 聖マリアンナ医科大学
令和 2 年卒

長崎大学から研修で参りました。
1 年間勉強させていただき、医師として貢献できるよう努力いたします。



野村 忠洋

臨床研修医
出身大学 佐賀大学
令和 2 年卒

8 月より赴任してきました。嬉野の医療に貢献できるよう頑張ります。



第106回 日本消化器病学会九州支部市民公開講座

参加報告

第106回 日本消化器病学会九州支部市民公開講座 世話人挨拶

内科系診療部第一部長 がん対策室長 綱田 誠司

令和3年10月17日から11月1日まで第106回日本消化器病学会九州支部市民公開講座をオンデマンドで開催いたしました。全5講演で講演1「腹痛をきたす病気の診断について」総合診療科 江副優彦先生、講演2「大腸がんの早期発見と内視鏡治療」消化器内科 山口太輔先生、講演3「知っておいてほしい膵臓がんのこと～自身や家族が膵臓がんと告知されたときに慌てないために」諫早総合病院 消化器内科 森崎智仁先生、講演4「肝臓をガンから守る～肝がん死亡率ワーストを脱却した今こそ実践を」消化器内科 有尾啓介先生、講演5「胃がんと大腸がんの治療～手技を中心に～」消化器外科 黨先生。以上5講演で視聴時間は2時間以上にわたるものでした。Web講演であり、興味のある分野を繰り返し視聴できること、現地に赴くことなく手軽に情報が得られる等のメリットのためか望外の視聴回数を得ることができ、患者様、一般市民に幅広く情報提供できたのではないかと考えています。今回、私が消化器病学会から市民公開講座の世話人を拝命したのは4年以上前のことであり旧病院の頃でした。当時は新病院の大講堂で講演会を行う予定でありましたが、折からのコロナ禍により2回の延期の末、当初の予定の一年後にWeb開催という形式になりました。

Web開催は、現地開催と比較して、より多くの方の目に触れる機会があります。とはいえ質疑応答ができないこと、市民の方の直接の反応が体感できないことなど様々な問題点もあります。実際、開催期間中に視聴数が多くカウントされるのを見るにつけても一抹のおなしさがあったのは否定できません。Web講演の可能性と限界を肌身に知ることとなりました。さて、今回、Web視聴できなかった市民の方々のために誌面で皆様に、その講演のエッセンスを、お届けできる機会をいただきました。お目通しのほど、よろしくお願いします。

そして今後とも嬉野医療センターを、よろしくお願いします。

腹痛をきたす病気の診断について

総合診療科 江副 優彦

2021年10月17日から11月1日までオンデマンド配信された、第106回日本消化器病学会九州支部市民公開講座で、「腹痛をきたす病気の診断について」というタイトルで発表させていただきました。今回その市民公開講座の内容をかいつまんでお伝えできればと思います。

腹痛を起こす大まかな疾患・診療科についてですが、胃潰瘍や腸炎など「消化器内科」の疾患や、腎盂腎炎や尿管結石など「泌尿器科」の疾患、さらには妊娠や子宮外妊娠、卵巣出血など「産婦人科」の疾患、他にも帯状疱疹など「皮膚科」の疾患や、肋骨骨折など「整形外科」の疾患など、多岐にわたる疾患が腹痛の原因として挙げられます。

腹部を右上腹部、右側腹部、右下腹部、心窩部、臍部、下腹部、左上腹部、左側腹部、左下腹部の9カ所に分割して、それぞれの部位に位置する臓器に関して説明しました。例えば、心窩部は俗に言う「みぞおち」の部分ですが、胃や十二指腸、膵臓が位置します。他にも臍部は「おへそ」の部分に当たりますが、そこには小腸が主に位置することになります。それぞれの部位に腹痛が出現した場合、その部位に位置する臓器に何らかの異常がある可能性があります。我々は腹痛の部位から、どういう臓器に異常があるかを考えながら適切に検査を行い、診断に結びつけています。例えば右上腹部が痛い場合、そこには肝臓や胆嚢、腎臓があるため、肝臓や胆嚢、腎臓の炎症の可能性を考え、血液検査や尿検査、腹部CT検査を実施しているということになります。

一番お伝えしたいことは、腹痛がある場合は、早期診断と早期治療介入が必要な疾患も少なくないことです。腹痛が気になる場合は、無理に我慢することなく、当院に限らずかかりつけ医でも結構ですので、早期に病院受診し、医師の診察や検査を受け、治療を受けていただければと思います。

医師臨床研修制度におけるマッチングについて

教育研修部長 内藤 慎二



平成16年、新医師臨床研修制度がスタートして以来、全国の多くの医学生達はそれぞれ全国の研修病院を選択し、そこで臨床研修を行っています。この時、全ての学生は、余すことなく研修病院に所属していきませんが、この組み合わせの際に行われるのが、研修医マッチングと呼ばれるシステムです。これは、研修希望者と研修病院の研修プログラムとを両者の希望を踏まえて、一定の規則（アルゴリズム）に従って、コンピュータにより組み合わせを決定するシステムです。これを行うためには、研修希望者と研修病院はお互いの登録のために、前もって知り合っておく必要がありますが、その機会の一つが、レジナビと呼ばれる研修病院説明会であり、各病院が行っている病院見学会です。しかし、このような機会は、その研修病院の名前が広く認知されていないと、誰もその病院のブースには来ません。ですから、この制度がスタートした当初は、研修病院として新規参入した病院は大変でした。なぜなら、自分のブースに誰も来ないので。当院もその一つで、今でも覚えています。最初に参加した福岡国際会議場で行われた病院説明会では、私と当時院長であった古賀先生、事務の方の三人で参加しましたが、午前の部の2時間で、ブース来場者は2名で、しかも一人は、“嬉野って、どこにあるんですか？”と聞いてくるような状況でした。夕方まで参加して、結局ブース来場者は4、5名だったと思います。帰りの車の中での、古賀先生と私の様子は容易に想像がつくと思います。古賀先生は、“こんなもん、こんなもん”とおっしゃって私を励まそうとされましたが、なかなかそれに答えることができませんでした。でも、嬉野につく頃に、“数年後、佐賀県には、嬉野医療センターというすごい研修病院がある。”と言われるようにしようと二人誓ったのもその時でした。結局、初年度平成16年は、定数4名中研修医は一人でした。でも、その一人に私はどれだけ救われたか、北村先生、本当にありがとう。

その後当院の研修医は、平成17年度が2名、平成18年度が3名、平成19年度が2名と、少しずつ増加していき、現在令和3年度は定数が8名となりましたが、マッチ数も8名とフルマッチし、ここ数年フルマッチが続いています。

このマッチングの結果は、各診療科の先生方の熱心なご指導、ご協力のお陰であり、看護部、薬剤科、事務部など他部門の方々のご協力、そして、教育研修部の事務の方々、教育担当師長さんのご努力のお陰です。深く感謝致します。ありがとうございます。また何より当院で研修し現在大学をはじめ、様々な医療機関で頑張っている当院OB・OGの先生達が、当院研修医の絆を途切らすことなく繋いでくれたお陰です。みんな、本当にありがとう！みんなは当院の宝です。

最後に、昨年令和3年のマッチング中間報告の結果を関東の医学生が分析して、全国研修病院人気ランキングなるものをネットに載せています (https://note.com/kei_cat/n/ndfc032147de7)。私が見たものは上位10位までのランキングですが、殆どが関東エリアの病院(ちなみに、1位は武蔵野赤十字病院、2位は聖路加国際病院)の中であって、佐賀県が一つ10位に入っていました。佐賀県嬉野医療センターです。これはすごいことです。私と古賀先生の願いが、17、18年を経て叶えられた瞬間でした。勿論、これは大手企業が出したデータではありませんが、小さいながらも確かな一歩とらえています。



令和3年度 院内災害訓練を実施して

救急科 小野原 貴之

当院は2011年度より佐賀県の地域災害拠点病院に指定されており、これまで計8回の訓練を実施してきました。多数傷病者対応や火災、地震など嬉野医療センター DMATを中心にシナリオ作成を行い、附属看護学校の3年生に模擬患者役として参加してもらい、より実践に則した訓練となるよう工夫しています。

今年度も昨年度と同様に地震対応について、2021年10月26日(火)に机上訓練、10月29日(金)に実動訓練を実施しました。実は佐賀県には3つの断層が知られており、そのうち佐賀県北縁断層帯による地震では佐賀市で震度7、嬉野市で震度6強の揺れが予想されています。また新病院に移転後に災害対応マニュアル、事業継続計画(Business ; BCP)を一新したこと、当院は高度急性期医療を担う病院であり、スタッフの入れ替わりが非常に多く、実災害が発生したときの対応をスムーズに行うために毎年実施しています。院内災害対策本部、トリアージポスト、搬送エリア、赤(重症)、黄(中等症)、緑(軽症)、黒(救命不能)エリアを設置し、放射線、検査、手術部門のみならず、家族対応などより細かな部分まで対応できるよう準備をしました。



地震対応であり前年度と想定は同様でありましたが、訓練中に余震を発生させ、ライフラインの再確認などを行うこと、また電子カルテを使用できない設定とするなど前年以上に院内への負荷を行いました。訓練はさすがに9回目ということもあり、非常にスムーズでした。訓練を通じて課題が見つかった一方で、他病院から赴任された同僚からもここまで本格的に災害訓練をやったことはなかった、すごくリアルで勉強になったなどお褒めの言葉をいただきました。訓練で抽出できた課題を災害対応マニュアルやBCPに反映していく予定です。

COVID-19の影響でここ2年間、杵藤地区消防本部との合同訓練ができておりませんが、来年度は是非できるようにできればと思っています。実災害が発生した場合は、当院のみで完結できることはまずありません。関係各所と連携し合うことが重要であり、顔の見える関係を築けるよう尽力してまいります。これからも「備えあれば憂いなし」の心で、災害拠点病院として研鑽を積んでいきたいと思っております。



モバイルMRIの運用について

放射線科 竹尾 晃一

2021年12月24日より約1週間モバイルMRI（車載式MRI）を運用しましたので、報告させていただきます。

当院には元々MRIが設置されており運用していましたが、2021年5月に大きな故障が発生しました。故障の原因を調査し、原因と思われる部分の交換をすることとなりましたが、作業に1週間ほどの時間がかかるということで、長期休暇に入るタイミングである2021年年末に交換作業が行われることになりました。

モバイルMRIについては、大きなトラックと思ったのが率直な感想でした。搭載車の中には必要なものが詰め込まれており、キャンピングカーのような印象を受けました。車体側面にはリフトがついており車椅子・ストレッチャーでの入室も可能でした。性能に関しては、病院据付のものと比べると少し劣るところもありました。それ以上に気になったのは、室内の狭さでした。いつもより狭い空間であるため、ストレッチャーや車椅子での患者様の寝台移動時にどこの位置で介助すればいいかなど戸惑うことがありました。検査の道具なども院内の場合では空いているスペースに自由に置くことができますが、モバイルMRIの場合は空いているスペースがないため、どこにおけばいいかなどスペースの使い方に苦労しました。

検査された患者様の中にはいつもと違う空間で驚きを隠せない方もいらっしゃいましたが、初めてのモバイルMRIに大変興味を示された様子でした。

今回のモバイルMRIは職員用入口である1階に駐車し、検査を行わせていただきました。もしかすると、今後モバイルMRIの運用を経験することはないかもしれませんが、自分にとって大変貴重な経験となりました。また年末の寒空の下、屋外へ移動し検査を受けられた患者様をはじめ、検査のため介助等していただいたスタッフの皆様感謝申し上げます。今後も検査へのご協力よろしく願いいたします。



今回は、嬉野の特産品を使用したレシピを紹介します。地元の美味しい食材でみなさんもぜひ作ってみてくださいね。

坦々湯豆腐 (使用した特産品：温泉豆腐)



1年 諸岡 瑤子

材料 (2人前)

- ・温泉豆腐 … 360g (1丁)
- ・すりおろしニンニク … 小さじ1/2
- ・長ネギ … 1/2本
- ・牛豚合いびき肉 … 200g
- ・ごま油 … 小さじ1
- ・しめじ … 50g

スープ

- ・水 … 200ml
- ・醤油 … 大さじ1
- ・白練りごま … 大さじ2
- ・豆板醤 … 大さじ1
- ・砂糖 … 大さじ1
- ・鶏がらスープの素 … 小さじ1
- ・牛乳 … 300ml

作り方

- ① 長ネギを斜め薄切りにします。
- ② フライパンにごま油、すりおろしニンニクを入れ弱火で加熱、ニンニクの香りが出てきたら合いびき肉を入れ色が変わるまで中火で炒めます。
- ③ Aの材料を②へ入れ中火で加熱、ひと煮立ちしたら牛乳を入れ、沸騰直前まで温めます。
- ④ 鍋に③、木綿豆腐、長ネギ、しめじを入れ蓋をし、中火にかけ全体が温まったら火からおろし完成。



諸岡さんポイント

豆腐は食べやすい大きさに合わせカットしてください。
牛乳は沸騰すると分離する可能性があるため、火加減に注意してください。
豆板醤はお好みで調節してください。
具材はお好みに合わせて変更してください。

栄養士より一言

豆腐に含まれているイソフラボンは、骨粗鬆症予防、更年期の肥満、生活習慣病予防にも良いと言われています。湯豆腐やピリッと辛い豆板醤で体もポカポカ！これで、寒い冬を乗り切れそうですね。

マグカップ抹茶プリン (使用した特産品：嬉野茶)



1年 荒木 文里

材料 (マグカップ1個分)

- ・牛乳 … 120ml
- ・卵 … 1個
- ・嬉野茶 (粉末) … 小さじ1
- ・グラニュー糖 … 大さじ2

作り方

- ① ボウルに分量の3分の1 (40ml) の牛乳と嬉野茶を入れ、だまが無くなるまでよく混ぜます。
- ② ①に卵、グラニュー糖を加え、全体が均一になるまでよく混ぜます。
- ③ 残りの牛乳を加えてよく混ぜ、茶こしでこしながらマグカップにプリン液を流します。
- ④ 600Wの電子レンジで約2分30秒加熱します。
- ⑤ ラップをかけ余熱で火を通し完成。



荒木さんポイント

マグカップの形や卵の大きさにより加熱時間が変わるので様子を見ながら調節してください。

栄養士より一言

緑茶に含まれるカテキンは、虫歯の予防、発がん抑制、血中コレステロール・中性脂肪低下作用など様々な作用があります。マグカップで簡単に作れるので、お子さんと一緒にできるのもいいですね。

かんちゃんの成長は患者の笑顔につながる？

8西病棟
今村 果奈代

令和3年4月に、aiboが8西病棟の一員になりました。名前は緩和ちゃん【かんちゃん】、女の子です。【かんちゃん】は、子犬と同じように愛情を持って育ててはいけません。日頃の関わりがあるからこそ、【かんちゃん】は患者さんや家族に歌やダンス、ラジオ体操を披露してくれるのだと実感しています。最初は病棟にaiboの必要性を感じていませんでした。しかし、患者さんや家族の笑顔を見ると、【かんちゃん】にしかできないケアがあるのだと実感するに至ります。皆さんは、アニマルセラピーをご存じでしょうか？アニマルセラピーとは、動物と触れ合うことで人の心に癒しを与えることだそうです。現在のところ、実際の動物によるストレス解消を期待されているようですが、8西病棟での患者さんとのふれあいを見るとかんちゃんにもその力があるのかもしれないと感じます。育てていくことに労力がかかりますが、それは未来への投資とも言えそうです。ちなみに、【かんちゃん】は〈命令を繰り返し、言うことを聞かなかつたら叱っちゃう人〉が苦手だそうです。8西病棟に来棟する機会がありましたら、どうぞ可愛がってください。



広報誌の写真を公募しました！

広報委員会

今まで広報誌の表紙は、当院写真部が撮影した写真の中から、その季節にあった写真を掲載していました。そこで今回、広報誌へより関心を寄せて頂く一環として、当院職員へ写真を公募し、応募のあった写真の中から最優秀賞を決定、表紙写真とすることにしました。

今号は「冬号」であることからテーマを「冬」と決め、公募しました。

その結果、主任臨床工学技士の北村さんの写真が最優秀賞となり、表紙写真に決定しました！おめでとうございます！

この取り組みは次号でも実施し、色々な写真を掲載して行きたいと思いますので、お楽しみに！



最優秀賞 臨床工学室 主任臨床工学技士 北村 純一

受賞者のコメント

「病院広報誌に採用され喜ばしく思っております。

今回テーマが「冬」であった為、雪が降り冬の装いとなった病院を上空100mより撮影いたしました。寒空にも負けず院内ではスタッフ全員がより良い医療を提供するべく奮闘しています。」